

日清製粉グループ 中間連結決算

[平成19年3月期中間連結決算]

主に日清ファルマ㈱の主力のコエンザイムQ₁₀の収益低下により減益。

株式会社日清製粉グループ本社（社長 長谷川 浩嗣）の平成19年3月期中間連結決算につきましては、国内の小麦粉関連市場の需要低迷と食品業界を取り巻く低価格志向が継続する厳しい事業環境の中、各事業において積極的な販売促進活動や新市場開拓を進め出荷伸長を図るとともに、引き続きコスト削減を実施してまいりました。しかしながら、日清ファルマ㈱において主力のコエンザイムQ₁₀のブームの沈静化と需給バランスの変化により売上が減少したこと、日清エンジニアリング㈱において前年上期の完工高が高水準であった反動により、売上が前年を下回ったことなどから、連結業績は前年を下回りました。

売上高は2,078億2百万円（前年同期比98.1%）と減収となりました。利益面におきましては、経常利益は109億25百万円（前年同期比94.2%）、中間純利益は53億98百万円（前年同期比86.4%）とそれぞれ減益になりました。

[平成19年3月期通期連結業績予想]

下期は各事業において積極的な拡販を進めて前年を上回る収益となるものの、上期の減益幅が大きく、通期業績見通しは増収減益の見込み。

当社グループは下期においても引き続き海外事業、中食・惣菜事業の拡大とそのためのインフラ整備を進めるとともに、主要製品のシェアアップ、コスト革新などの経営体質の強化を進めてまいります。特に、主力のコエンザイムQ₁₀の市場環境が引き続き厳しいと予想される日清ファルマ㈱におきましては、消費者向けの製品の上市や新しいチャネル開拓を積極的に推進し、改善施策を進めてまいります。この結果、下期では増収増益を見込んでおります。

平成19年3月期の連結業績予想におきましては、中間期の業績を踏まえて、5月公表の通期業績予想を引き下げております。売上高は4,250億円（前期比100.9%）と増収となるものの、利益面では上期の減益幅が大きく、通期でも経常利益は245億円（前期比98.9%）、当期純利益は134億円（前期比99.0%）と減益となる見込みです。

以 上